

ITU 世界トライアスロンシリーズ (2012/横浜) にて、JADA が血液検査実施：
JADA-ITU-JTU のパートナーシップ

この度、2012年9月29-30日に横浜で開催された「ITU 世界トライアスロンシリーズ(2012 ITU World Triathlon Series Yokohama)」にて、日本アンチ・ドーピング機構 (以下、JADA)は血液検査を実施致しました。

本大会では、国際トライアスロン連合(International Triathlon Union, 以下 ITU)が検査主催機関あり、JADAは検体採取権限を委譲され ITU の検査計画に参画しました。競技会外、競技会検査での尿、血液検体採取のため、早い段階から協働して検査計画を立案してきました。今回は、血液検査実施のため、文部科学省、厚生労働省および開催地の関連する機関と全プロセスを確認し、現行法に則った上で採血が行われました。

日本トライアスロン連合(以下、JTU)の協力を得ながら、検査に関する国際基準 (IST) に沿いドーピング・コントロール・ステーションの確保がなされ、尿と血液検査の実施がされました。さらに、移動可能な「ドーピング・コントロール・ステーション・カー (Doping Control Station Car)」を活用しての血液検査がなされています。



ドーピング・コントロール・ステーション・カー



ドーピング・コントロール・作業室

ITU アンチ・ドーピング・ディレクター、レズリー・ブカナン (Leslie Buchanan)氏は、「ITU と JADA とは、数年来の協力関係にあり、近直のところでは 2012年4月 ITU ワールドカップ石垣島でも ITU の検査権限の下、JADA が尿検体の採取を実施してきました。今回の横浜大会では、関係機関との調整を経て、血液検査の実施に至ったことをとても嬉しく思いますし、今後の密な協力関係を構築できることを楽しみにしています。」とコメントをしています。

血液検査の実施は、近年世界アンチ・ドーピング機構(World Anti-Doping Agency, WADA)より、効果的で効率的な検査を履行が強調され、先日の 2012 年ロンドン・オリンピック・パラリンピック大会同様、国際大会開催のためには血液検査が必須要件とされています。この点については、WADA アスリート委員からも血液検査の実施の緊急性が強調されてきています。

今後も、JADA 加盟団体や国際競技連盟、各種大会組織委員会との密な協力の下に、日本での国際大会開催、国内のトップの選手権大会等、そして競技会外の検査にて尿検査・血液検査を国際水準に準拠して推進して行きます。

問い合わせ—JADA 事務局、山本：media@playtruejapan.org / [03 5963 8030](tel:03-5963-8030)

参照：

「WADA アスリート委員、さらなる血液検査と EPO 検査の実施を要求 (WADA Athlete Committee calls for more blood and EPO testing)」 -

<http://playtrue.wada-ama.org/news/wada-athlete-committee-calls-for-more-blood-and-epo-testing/> (2011.10.14)

ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜 - <http://yokohama.triathlon.org/>

国際トライアスロン連盟 (ITU) - <http://www.triathlon.org/anti-doping/>

日本トライアスロン連盟 (JTU) - <http://www.jtu.or.jp/>

2012.10.22